

巨大市場への挑戦

豊橋南ばら会
代表・伊藤氏迎え

ザ・パートナース勉強会

バラ園見学も

起業・創業を支援する専門家グループ、ザ・パートナース(夏目学代表)は19日、豊橋市二川南校区市民館で第2回「起業家訪問・勉強会」を開いた。豊橋南ばら会代表・伊藤禎洋(よしひろ)氏が

「小さなバラ農家集団による巨大市場への挑戦」と題して講演。こ

の後、二川町西向山の伊藤バラ園を見学した。

伊藤氏は1958(昭和33)年豊橋生まれ。実家の漬物農家を継ぐも32歳の時、漬物からバラ生産へ転向。8年前に、志を同じくするバラ生産農家らと豊橋バラ会を結成。東京、大阪、金沢の市場

で販路を拡大している。

19歳の時、父の反対を押し切って法政大学短期大学部法経学科に入学した伊藤氏。「昼間、漬物屋『若生』でアルバイトして夜、学校に。2年間に漬け込みのほか配送や店頭販売を経験したことが役立った」と振り返った。

家業の漬物を継ぐもバラ農家に転向した理由を、「渾美たくあんが中心でしたが、漬物の販売が樽(たる)からバックになるなど、需要減を痛切に感じ

た」から」と説明。仲間と結成した豊橋南バラ会では、農協を飛び出したため、市場への参入に苦労したが、「最も商品価値が

高い、長くて真っ直ぐなバラを栽培。市場で『豊橋南バラ会の花が来た』とすぐ分かるように目立つデザインの箱に。箱のフタも上に

大きく開き、花が蛍光灯に映えるようにした」など、徹底した差別化戦略での拡販成功を語った。

(杉浦文夫)



「箱も目立つようにした」と語る伊藤代表。右は鈴木晴浩副代表―豊橋市二川南校区市民館で

東愛知新聞 2011年2月20日(日)